

平成30年度

主要な施策の成果に関する説明書

鳥栖・三養基西部環境施設組合

地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 5 項の規定に基づく平成 30 年度決算に係る主要な施策とその成果について次のとおり報告する。

令和元年 8 月 27 日

鳥栖・三養基西部環境施設組合
管理者 末 安 伸 之

目 次

1 決算の概要

(1) 総括	1
(2) 収支の状況	1
(3) 歳入の状況	1
(4) 歳出の状況	3
(5) 組合債残高の状況	3

2 主要事業の成果

(1) ごみ処理	4
(2) 環境情報	7
(3) 啓発事業	8

1 決算の概要

(1) 総括

歳入は、収入額 18 億 5,730 万 2 千円で、予算現額 18 億 5,205 万 4 千円に対して 524 万 8 千円の超過、前年度から 3 億 872 万円 (14.3%) の減となった。一方、歳出は、支出額 18 億 2,817 万 2 千円で、予算現額 18 億 5,205 万 4 千円に対して 2,388 万 2 千円の残 (執行率 98.7%)、前年度から 2 億 6,811 万 3 千円 (12.8%) の減となった。歳入、歳出とも減少したが、次期ごみ処理施設建設に係る事務事業が佐賀県東部環境施設組合に移管されたことが主な要因である。歳入では、次期ごみ処理施設建設に係る国庫支出金、受託事業収入がなくなった。歳出では溶融施設運転管理業務委託料が用役費の単価増により増額となったが、次期ごみ処理施設建設に係る施設建設費がなくなり、また、既存施設の建設事業債に償還満了したものがあり公債費が減少し、歳出額総額が減少した。

(2) 収支の状況

歳入総額 18 億 5,730 万 2 千円から、歳出総額 18 億 2,817 万 2 千円を差し引いた歳入歳出差引額は 2,913 万円となり、実質収支額も同額となっている。

今年度実質収支額から前年度実質収支額 6,973 万 7 千円 (前年度決算剰余金) を差し引いた単年度収支は、4,060 万 7 千円の赤字となった。

○歳入歳出収支状況

(単位：千円)

	歳入総額	歳出総額	差引額	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支
平成 30 年度	1,857,302	1,828,172	29,130	0	29,130
平成 29 年度	2,166,022	2,096,285	69,737	0	69,737
増 減	▲308,720	▲268,113	▲40,607	0	▲40,607

(3) 歳入の状況

(単位：千円)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		増減 (A)-(B)	対前年度 増減率(%)
	決算額 (A)	構成比	決算額 (B)	構成比	(C)	(C)/(B)
分担金及び負担金	1,524,567	82.1%	1,831,798	84.5%	▲307,231	▲16.8%
使用料及び手数料	165,103	8.9%	153,307	7.1%	11,796	7.7%
財産収入	279	0.0%	325	0.0%	▲46	▲14.2%
繰入金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
繰越金	69,736	3.8%	44,567	2.1%	25,169	56.5%
諸収入	97,617	5.2%	129,619	6.0%	▲32,002	▲24.7%
国庫支出金	0	0.0%	6,406	0.3%	▲6,406	▲100.0%
歳入合計	1,857,302	100.0%	2,166,022	100.0%	▲308,720	▲14.3%

○構成市町別負担金等

(単位：千円)

区 分		建設負担金 (施設建設費)	建設負担金 (公債費)	所在地交付金	管理運営費	計
鳥栖市	H30	0	257,843	14,281	706,269	978,393
	H29	48,708	400,518	14,262	694,961	1,158,449
	増減	▲48,708	▲142,675	19	11,308	▲180,056
上峰町	H30	0	44,441	1,611	117,015	163,067
	H29	8,129	69,032	1,605	115,542	194,308
	増減	▲8,129	▲24,591	6	1,473	▲31,241
みやき町	H30	0	142,179	4,108	236,820	383,107
	H29	18,332	220,852	4,133	235,724	479,041
	増減	▲18,332	▲78,673	▲25	1,096	▲95,934
神崎市 (事務委託)	H30	0				0
	H29	22,518				22,518
	増減	▲22,518				▲22,518
吉野ヶ里町 (事務委託)	H30	0				0
	H29	12,675				12,675
	増減	▲12,675				▲12,675
合 計	H30	0	444,463	20,000	1,060,104	1,524,567
	H29	110,362	690,402	20,000	1,046,227	1,866,991
	増減	▲110,362	▲245,939	0	13,877	▲342,424

○ごみ処理手数料

(単位：千円)

	鳥栖市	上峰町	みやき町	計
平成30年度	125,736	11,046	28,276	165,058
平成29年度	114,991	11,336	26,912	153,239
増 減	10,745	▲290	1,364	11,819

○資源化物の売払い額

(単位：千円)

	金属類	古紙類	プラス チック類	スラグ メタル	びん類	その他	合 計
平成30年度	26,600	15,924	1,890	1,912	418	985	47,729
平成29年度	21,646	21,219	2,302	1,165	425	1,236	47,993
増 減	4,954	▲5,295	▲412	747	▲7	▲251	▲264

(4) 歳出の状況

(単位：千円)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		増減 (A)-(B) (C)	対前年度 増減率(%) (C)/(B)
	決算額 (A)	構成比	算額 (B)	構成比		
議会費	283	0.0%	278	0.0%	5	1.8%
総務費	130,073	7.1%	120,191	5.7%	9,882	8.2%
衛生費	1,253,354	68.6%	1,285,416	61.3%	▲32,062	▲2.5%
公債費	444,462	24.3%	690,400	33.0%	▲245,938	▲35.6%
予備費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
歳出合計	1,828,172	100.0%	2,096,285	100.0%	▲268,113	▲12.8%

(5) 組合債残高の状況

(単位：千円)

区 分	平成 29 年度末 現在高 (A)	平成 30 年度中増減		平成 30 年度末 現在高 (A) + (B) - (C)
		発行額(B)	償還額(C)	
1 普通債	439,748	0	439,748	0
(1) ごみ処理施設建設事業	439,748	0	439,748	0
合 計	439,748	0	439,748	0

○借入先別残高の内訳

(単位：千円)

借入先	借入日	利率 %	借入額	平成 30 年度末 現在高	償還終了 年月日
郵便貯金資金	H15.3.31	0.8	1,965,400	0	H30.3.31
郵便貯金資金	H15.9.30	1.6	1,606,600	0	H30.9.30
郵便貯金資金	H16.5.31	1.5	652,400	0	H31.3.31
簡易生命保険資金	H16.5.31	1.5	145,400	0	H31.3.31
財政融資資金	H16.5.18	1.5	3,258,500	0	H31.3.25
合 計			7,628,300	0	

2 主要事業の成果

(1) ごみ処理

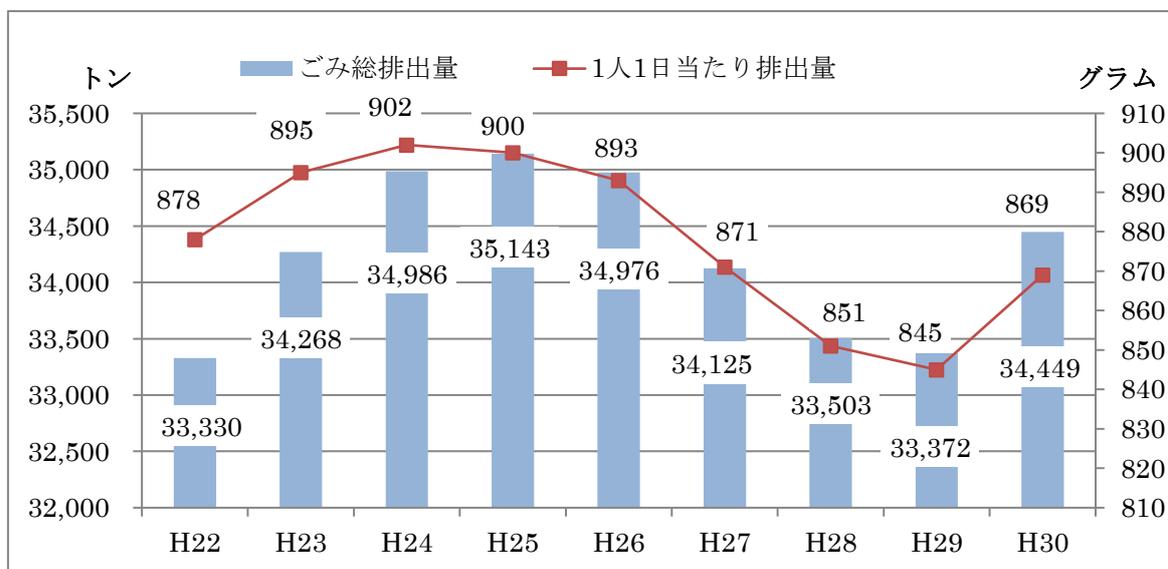
平成30年度の搬入ごみ量は、総計3万4,449トンで、前年度比較1,076トン(3.2%)の増加となった。種類別にみると、可燃ごみは800トン(2.9%)の増加、粗大・不燃ごみも350トン(9.2%)の増加、資源ごみは74トン(3.9%)の減少となった。また、搬入ごみ量の構成市町の割合は、鳥栖市71%、上峰町8%、みやき町21%となり、ごみ搬入量を1人1日当たりの量に換算すれば、鳥栖市が918グラム、上峰町が785グラム、みやき町が762グラムとなっており、鳥栖市、みやき町では前年度より増加した。

○ごみ搬入量

(単位：トン)

		可燃ごみ	粗大ごみ 不燃ごみ	資源ごみ	計	人口(人) 10.1 現在
鳥 栖 市	平成30年	21,036.63	2,325.65	1,232.27	24,594.55	73,422
	平成29年	20,343.15	2,100.21	1,283.31	23,726.67	73,058
	増 減	693.48	225.44	▲51.04	867.88	364
上 峰 町	平成30年	2,079.12	481.19	184.02	2,744.33	9,577
	平成29年	2,084.13	467.49	191.02	2,742.64	9,578
	増 減	▲5.01	13.70	▲7.00	1.69	▲1
みやき町	平成30年	5,375.69	1,324.32	409.82	7,109.83	25,562
	平成29年	5,264.05	1,213.83	425.60	6,903.48	25,485
	増 減	111.64	110.49	▲15.78	206.35	77
計	平成30年	28,491.44	4,131.16	1,826.11	34,448.71	108,561
	平成29年	27,691.33	3,781.53	1,899.93	33,372.79	108,121
	増 減	800.11	349.63	▲73.82	1,075.92	440

○ごみ搬入量の推移

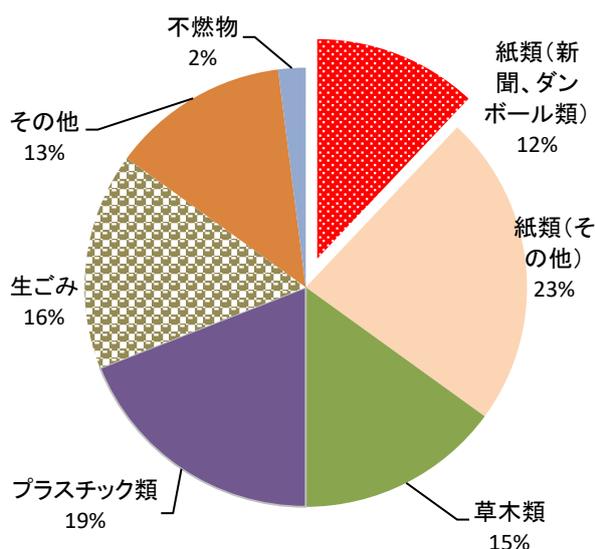


○可燃ごみの分類

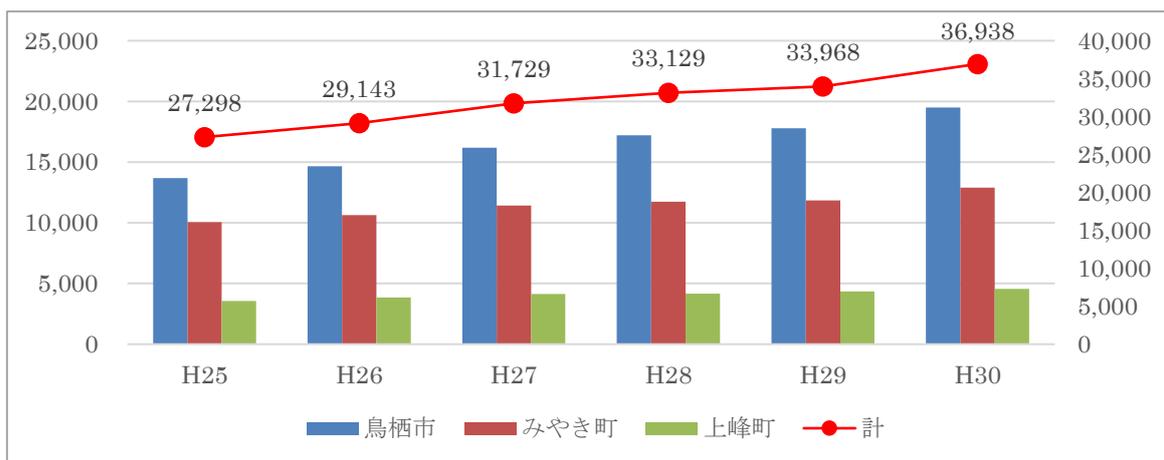
可燃ごみを分類すると、紙類が35%、プラスチック類19%、生ごみ16%、草木類15%であった。また、紙類のうち、資源化回収の対象となっている新聞、ダンボール、雑誌、広告が12%含まれ、重量にすると3,400トン程度となる。

焼却処分の中にながりの資源ごみが潜在していることから、更なる資源化分別を進める余地がある。

生ごみも、前年度からは若干減少しているが、依然として可燃ごみ中の水分は34%を占めている。食品ロスの問題もあり、引き続き「使い切り」、「食べ切り」、「水切り」を推進していく必要がある。



○リサイクルプラザ直接搬入台数の推移 (単位: 台)



平成30年度は、年間36,938台(前年比2,970台増)、1日あたり120台の搬入があり増加傾向にある。特に年末12月27日から29日の3日間で869台の搬入があった。混雑する土日や年末時における搬入者のごみ降ろし場所の確保が課題となっている。

○ごみ処理の状況

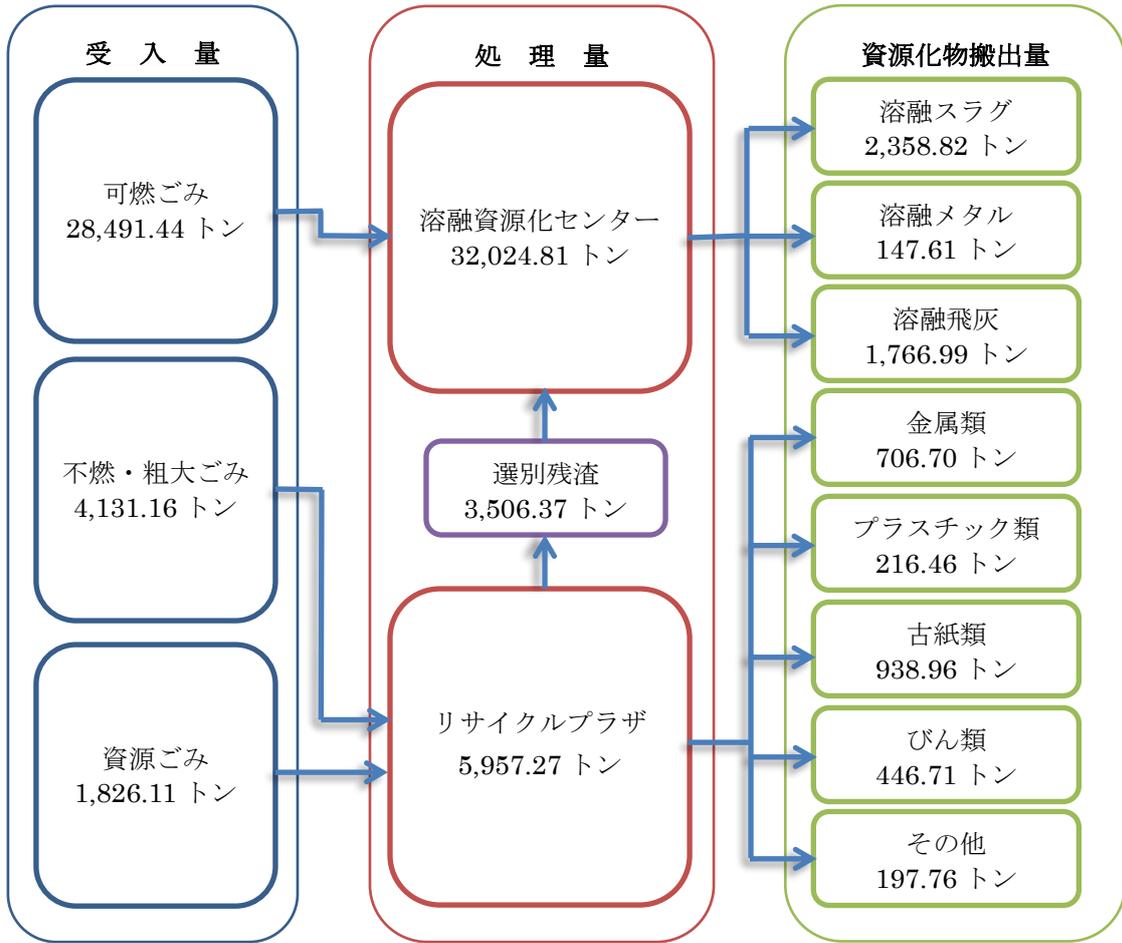
・可燃ごみの処理 (溶融資源化センター)

32,025トンを溶融施設で溶融処理し、溶融スラグ2,359トン(7%)、溶融メタル148トン(0.5%)を資源化した。溶融飛灰1,767トン(6%)は山元還元やセメント化による処理を行った。

・不燃・粗大ごみ、資源ごみの処理 (リサイクルプラザ)

4,131トン、資源ごみ1,826トンを選別処理し2,507トン(42%)を資源化物として搬出した。

○ごみ処理フロー



○資源化物の状況

溶融スラグ	溶融メタル	金属類	
			
プラスチック類		古紙類	びん類
			

(2) 環境情報

○排ガス測定結果

区 分	測定日		排出基準 (協定値)
	H30. 6. 20	H30. 12. 11	
ばいじん (g/m ³ N)	0.004 未満	0.005 未満	0.01
硫黄酸化物(ppm)	7	4 未満	50
窒素酸化物(ppm)	35	43	100
塩化水素(ppm)	7	4 未満	50
一酸化炭素(ppm)	10 未満	14	30
ダイオキシン類(ng-TEQ/m ³)	0.0000012	0.000071	0.1
総水銀 (μg/m ³)	5.5	4.5	50

○周辺環境ダイオキシン類調査結果

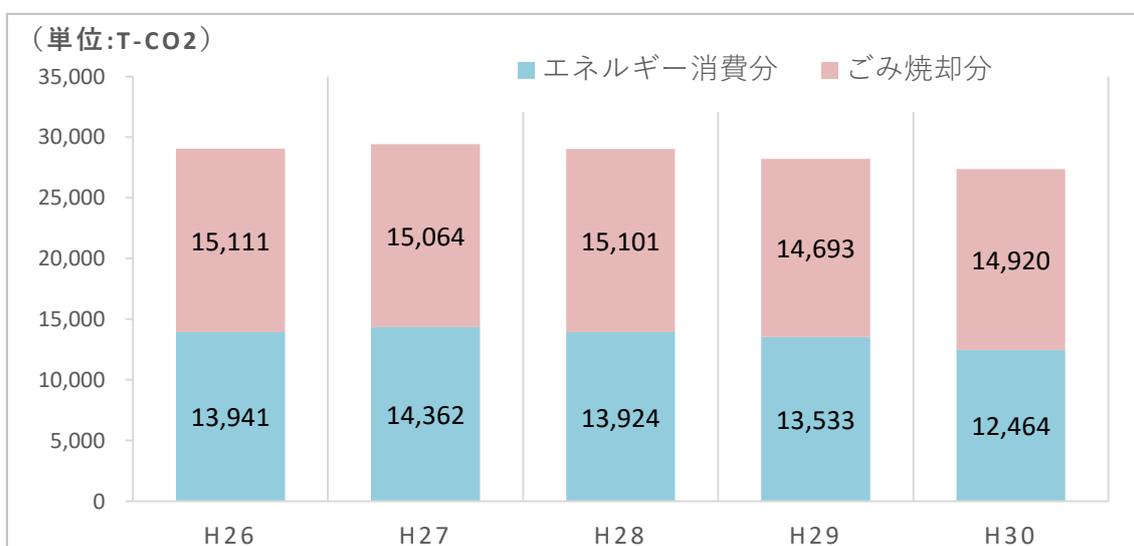
区 分	測定結果	基準値	測定日
大気 (p g-TEQ/m ³)	0.012、0.0084	0.6	H31. 1. 8~14
底質土壌 (p g-TEQ/g)	67	150	H30. 10. 11
一般土壌 (p g-TEQ/g)	1.4	1,000	H30. 7. 11
水質 (p g-TEQ/l)	0.27	1	H30. 10. 11

○温暖化対策

ごみ処理に伴う二酸化炭素の排出量は、年間 27,384 トン-CO₂ であった。

施設内の消費電力削減に努めた結果、年間の二酸化炭素発生量は 842 t-CO₂ 減少した。

引き続き消費エネルギーの削減とごみ減量化に取り組む必要がある。



(3) 啓発事業

○リサイクルプラザ利用状況（年間延べ利用者数）

視察研修	イベント参加	研修室借用	宿泊研修	エコライフ講座
1,527名	1,690名	426名	292名	133名

施設見学を通して環境学習に小学生1,192名が参加した。環境学習では、施設の紹介と合わせて、Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の3つのRでゴミ減量化やリサイクルの推進への啓発活動を行った。

環境イベントとして毎月第3日曜日に「エコライフ講座」、「もったいなか市」「エコマーケット」を開催した。7月には環境団体の協力を得て「2018環境フェア」を実施し280名の参加があった。

また環境美化活動として実施した、風の広場のひまわり花壇や、菊づくり教室の菊花展には多くの来場者があった。



○環境フェア（体験コーナー）



○エコライフ講座



○周辺環境美化活動（風の広場）



○エコマーケット